

被災文化財レスキュー事業  
情報共有・研究会(第1回) 東京文化財研究所

### 被災文化財救済の初期対応

- 生物劣化を極力抑え、  
かつ後の修復に備えるために -

### 特徴(1) 水濡れ

(水濡れそのものによる影響に加え、)

→ **カビ、バクテリアなどによる生物被害**



いかに抑制するか

- ・生物被害をできるだけ抑えつつ、次の修復につなげる
- ・「初期対応」として、何に気をつけ、どこまでやればいいのか？

### 特徴(2) 津波 → 海水

水濡れ ← 淡水(雨水、川の水など)  
海水(津波)

海水による(+) カビなどが生えにくい？  
海水による(-) 塩分が残る

→ これら要因によって、淡水による水濡れと初期対応が変わる部分があるのかどうか？

### 特徴(3) 広域の被害

- ・資材なども必ずしも十分にはない

初期対応では、現場で入手できるもので、状況に応じて、できる限りの手当をすることになる

しかし、その時でも、「文化財の種類ごとに何に気をつけなければならないか」という

基本的なポイントがわかっていることは大切

→ **コメンテーターの先生方によるメモ**

- 13:30 開会あいさつ
- 13:40-14:20 フリーランス・ペーパーコンサバター 坂本 勇 氏  
・ インドネシア・アチエおよび東北の大津波で被災した文化遺産の救出活動について
- 14:20-15:00 東京大学大学院農学生命科学研究科 江前 敏晴 氏・東嶋 健太 氏  
・ 紙文書類のカビ抑制に与える塩水の効果について
- 15:10-15:50 紙修復家 谷村 博美 氏  
・ プラハ洪水の際、被災文化財レスキューに使われたスクウェルチ・パッキング法
- 15:50-16:00 東京文化財研究所 木川 りか ほか  
・ 塵布団圧縮袋を用いたスクウェルチ・パッキング法の検討、  
真水、塩水に浸した紙資料、日本画、油絵の状況について(デモンストレーション)
- 16:10-17:00 情報交換・意見交換 (具体的方法についての討論)  
コメンテーター(順不同):  
高妻洋成 氏(奈良文化財研究所)、青木睦 氏(国文学研究資料館)、日高真吾 氏(国立民族学博物館)、岡藤央 氏(国宝修理装こう師連盟)、木島隆康 氏(東京藝術大学)、今津節生 氏(九州国立博物館)、山下好彦 氏(東京文化財研究所客員研究員)、山口孝子 氏(東京都写真美術館) ほか